

工業用水道事業 経営レポート

令和7年度版



新潟県企業局

- 新潟県の工業用水道事業は、地盤沈下対策などの環境保全や産業振興のため建設された山ノ下工業用水道が昭和33年7月から一部給水を開始して以来、令和7年度で67年が経過しました。
- この間、上越、新潟臨海及び栃尾工業用水道を建設し、平成2年8月に山ノ下工業用水道を新潟臨海工業用水道と接続統合したため、令和7年度末現在3工業用水道で営業を行っています。
- 工業用水道事業は、新潟県工業用水道条例に基づき、受水企業様からの給水申込みによって設備計画を立て、料金を設定した上で事業を運営しています。



旧山ノ下工業用水道
(新潟市東区)

1 事業実績



- ◎ 令和7年度に供給した工業用水は、4,760万 m^3
- ◎ この水量は、ビッグスワンに換算すると約24個分に相当

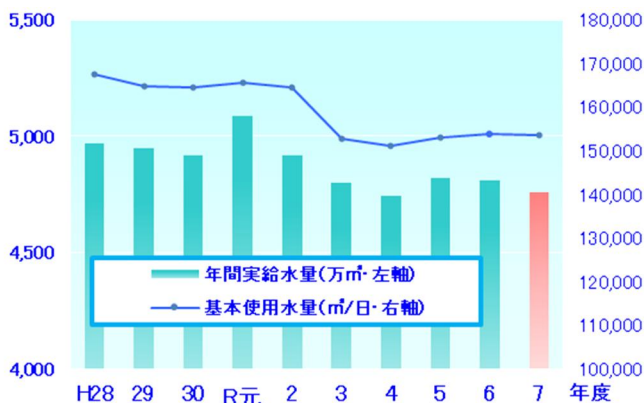
- 工業用水は、工場などで機械の冷却や製品・原材料の洗浄、温度調節などに利用され、「産業の血液」と言われています。
- また、河川の表流水を水源としているため、地下水のくみ上げによる地盤沈下の防止にも役立っています。



📷 笹山浄水場（新潟市北区）

阿賀野川上流の頭首工から取水した水を、きれいな水に浄化したのち、工業用水として新潟市・聖籠町の各受水企業に供給しています。

📊 実給水量と基本使用水量の推移



- 令和7年度の実給水量は、前年度比1.1%減の4,760万 m^3 となりました。
- また、1社100 m^3 /日の廃止があり、令和7年度末の給水先は91か所、基本使用水量は、153,636 m^3 /日となりました。
- これにより、給水能力に対する基本使用水量の割合である契約率は56.4%となり、前年度比0.1ポイント減となりました。

- 令和7年度の実給水量4,760万 m^3 は、ビッグスワン約24個分の容積に相当します。(ビッグスワンの容積：約200万 m^3)



24個

用語解説



工業用水 工業用水とは、製造業や電気などのエネルギー供給業の用に供する水のことをいい、水力発電用の水や飲用に適する水として供給するものは除きます(工業用水道事業法第2条)。

なお、例外的に工業用水道から洗車用水などの雑用水を供給することができます。

基本使用水量 常時給水することについて、企業局長が承認した1日当たりの使用水量です(新潟県工業用水道条例第3条)。契約給水量、契約水量ということもあります。

2 経営状況



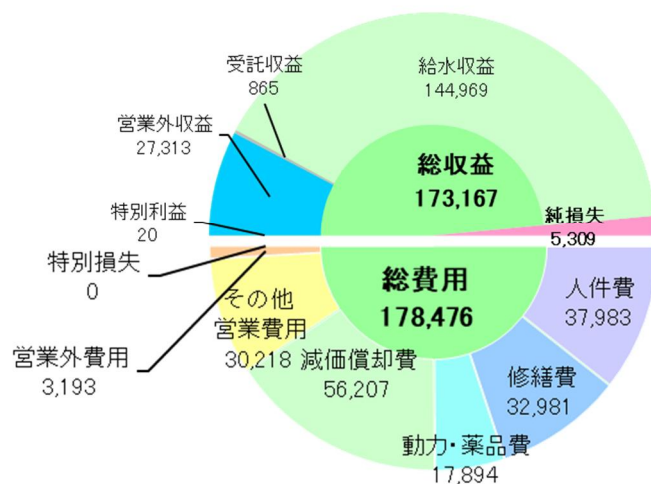
- ◎ 令和7年度の年間給水収益は、前年度比2.6%増の14億4,969万円
- ◎ 総費用が総収益を上回り、純損失5,309万円を計上

収益的収支の状況

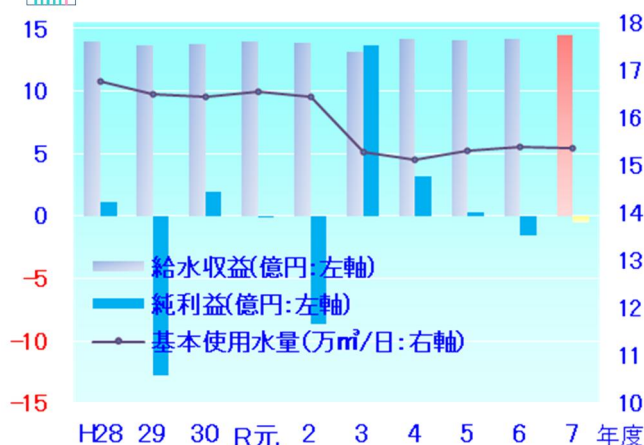
- 給水収益については、3工業用水道全体で14億4,969万円となり、前年度途中まで試験給水による減免措置を行っていた企業から通年で料金収入を得られたことなどにより、実給水量の減少下においても、前年度と比べ2.6%増加しました。
- 営業費用については、適正な執行に努めたものの、老朽化した施設の修繕費等が横ばいで推移したことから、17億5,283万円となりました。（前年度：17億6,614万円）
- この結果、総収益は17億3,167万円、総費用は17億8,476万円となりました。
- 純損失は5,309万円となりました。



収益的収支の内訳（税抜：万円）



給水収益・純利益・基本使用水量の推移



水道使用料金（令和7年度末現在）

工業用水道名		基本料金単価(税抜) (円/m³)
上越工業用水道		21.3
新潟臨海工業用水道	東部系	27.3
	西部系	
栃尾工業用水道		19.3

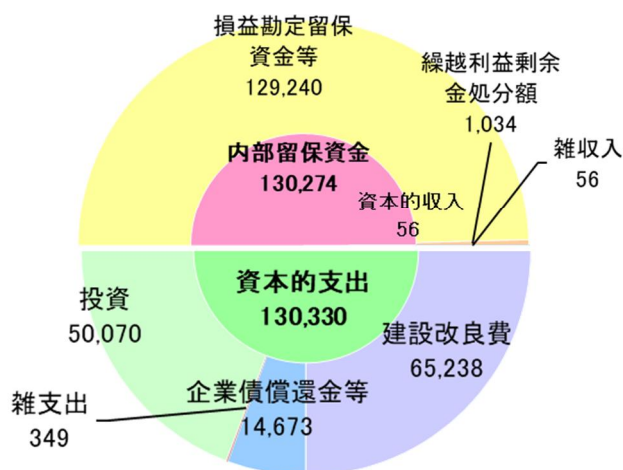
- ・工業用水道の水道使用料金は、基本使用水量に単価を乗じ、消費税を加えた額となります。受水企業の水需要を基に必要な施設を整備し、この建設投資額を水道料金で回収しています。
- ・このため、当初給水申込みいただいた基本使用水量について、その水量の全部または一部を使用しなくとも、料金の全額を徴収する「責任使用水量制」を基本としています。

資本的収支の状況

- 建設改良費は、前年度に引き続き増強補修工事を実施し、主なものは、新潟臨海工業用水道 新発田川水管橋耐震補強工事で6億5,238万円となりました。
- 企業債償還金は、1億4,673万円で、この結果、令和7年度末の企業債残高は約23億円となりました。
- 収入額が支出額に足りなかったため、損益勘定留保資金等の内部留保資金で不足額を補てんしました。



資本的収支の内訳（税込：万円）



3 環境保全への取組

◎ 工業用水道事業は、地盤沈下対策として、地域の環境保全に寄与

- 新潟市山ノ下地区の地盤沈下が顕在化し、地下水のくみ上げがその要因とされたことや、企業の水需要が増大したことから、昭和32年に山ノ下工業用水道の建設に着手しました。

工業用水となる水は、地下水ではなく河川から取り入れるため、地盤沈下対策につながります。

- また、上越工業用水道も水需要の飛躍的な増大と地盤沈下対策のため、昭和35年度から建設に着手しました。

📷 上越工業用水道の建設の様子



- ・昭和35、36年頃の高速凝集沈殿池建設の様子。
- ・上越工業用水道は、昭和37年5月から給水を開始しました。

📷 工業用水の供給過程



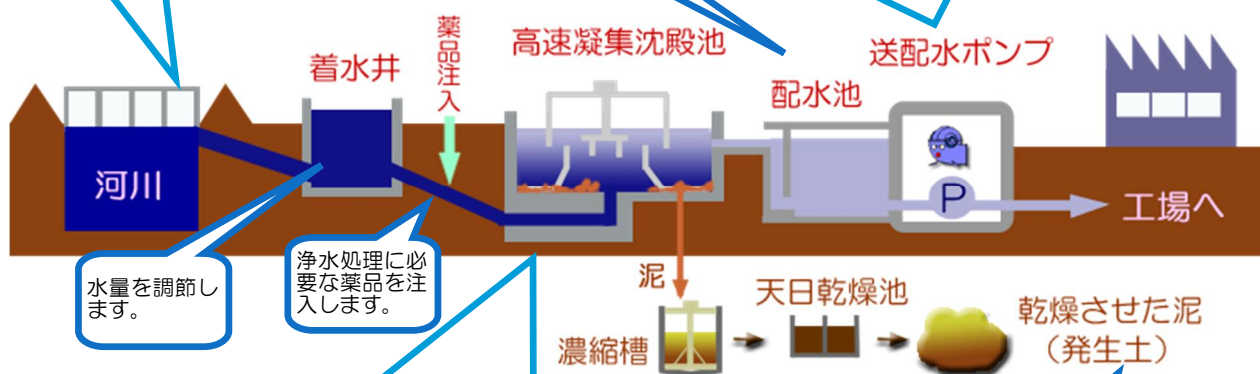
■取水口
(新潟臨海工業用水道)

取水口から水を取り入れます。

- 多量の水を必要とする製造業などのため、工業用水をつくり、安定的に企業へ供給し、県の産業基盤整備の一つとして県内産業の発展に貢献しています。
- また、安定した給水を行うための設備の能力増強や、河川の高濁度に対応するための設備を整備しています。

■送配水ポンプ
(新潟臨海工業用水道)

工場へ水を送ります。



■高速凝集沈殿池
(新潟臨海工業用水道)

薬品によって、水中の汚れ等を集め泥として沈めます。浄化された水が工業用水になります。



1 m³当たり55円(税込)で販売しています。



4 トピックス



◎ 新発田川水管橋耐震補強工事を行いました

- 新発田川水管橋は、笹山浄水場から西部系へ給水する唯一の管路の一部であり、東区の工業地域や新潟火力発電所への給水を担う重要な施設です。耐震診断の結果、十分な耐震性能を有していないことが判明したため、令和元年度より耐震化工事を進めてきました。
- 令和7年度からは、河川内の橋脚基礎を含む耐震補強工事を実施しています。水管は橋脚上にあるため、地震時に橋脚からの脱落を防ぐ目的で、橋桁と水管の接続部を補強する銅製部材を設置しています。
- 新発田川水管橋の耐震化は令和8年度に完了し、安全性と安定した給水機能を確保できる管路となります。



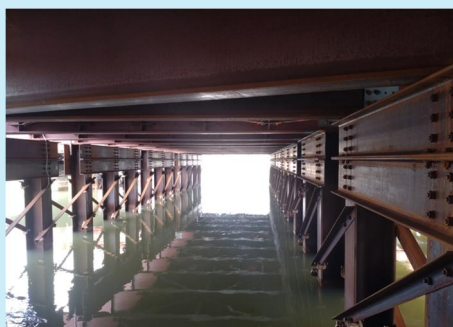
仮橋仮設状況



新発田川右岸側から長さ33mの柱70本を利用し、100mクレーンによる鉄骨製の仮橋を設置しています。



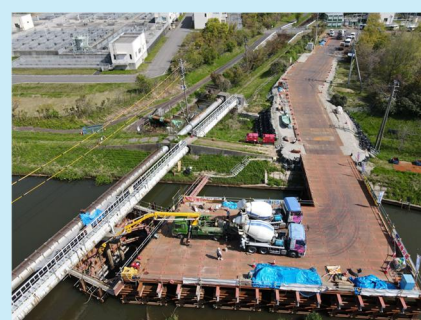
下から見た仮橋の様子



河川内に銅矢板を箱状に打設した後、内部を排水して作業空間を確保します。



基礎杭やコンクリートの補強



橋脚基礎は、直径33.5cm・延長約20mの鋼管杭18本増し打ち及びコンクリート躯体の増強により補強しています。

5 施設概要



新潟工業用水道事務所
(新潟市北区)

新潟臨海工業用水道の管理・運営を行っています。



上越利水事務所
(上越市)

上越工業用水道の管理・運営を行っています。



(写真) 阿賀野川頭首工

- ・阿賀野川河口から約36km上流にある頭首工から取水しています。



(写真) 上越利水事務所の施設全景

- ・写真右側の関川から取水し、浄水設備などを経て、工業用水を供給しています。



栃尾工業用水道 (長岡市)

栃尾工業用水道は、長岡市に管理委託を行っています。
写真は、刈谷田川の取水堰です。



企業局ホームページのご案内



新潟県企業局の情報は、新潟県ホームページにある「企業局ホームページ」をご覧ください。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/kigyo/>
または、「新潟県企業局」で検索してください。

「工業用水道事業経営レポート」 令和8年9月発行

企画・編集

新潟県企業局営業企画課

〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1

電話番号 025(280)5567

ファクシミリ 025(283)9357